

リハビリテーション科

．プログラムの名称

慶應義塾大学医学部リハビリテーション科後期臨床研修プログラム

．基本方針

リハビリテーション科は、主に神経・筋・骨格器系の異常にもとづく運動機能障害を対象として、医学的治療を施す診療科である。我々、リハビリテーション科医は、運動機能障害の診断・治療・予防を専門とし、筋電図・神経伝導検査、歩行分析などの診断手法を用いながら、適切な障害の診断、残存機能の評価、機能回復の予測を行い、十分な診断・評価のもとに、適切なリハビリテーションプログラムを施行し、疾患により生じた移動・身辺動作・コミュニケーションなどの障害に対して失われた機能の回復を促し、日常生活の自立や社会復帰を支援することを使命とする。

2年間の研修をもとにして、慶應義塾大学医学部リハビリテーション科の各教育関連病院においてリハビリテーション医としての臨床経験を積むと同時に、研究活動の指導を受ける。この期間に、リハビリテーションに関する臨床面での自立、日本リハビリテーション医学会のリハビリテーション専門医制度における専門医の取得ないし学位取得のための準備を行う。

．プログラム責任者と参加協力施設

プログラム責任者

慶應義塾大学病院リハビリテーション科

診療部長 里宇 明元 教授（日本リハビリテーション医学会専門医、指導医）

研修医担当主任 辻 哲也 専任講師（日本リハビリテーション医学会専門医、指導医）

基幹施設： 慶應義塾大学病院（リハビリテーション科）

参加協力施設

群馬県：慶友整形外科病院

埼玉県：国立病院機構東埼玉病院

千葉県：市川市リハビリテーション病院、谷津リハビリテーション病院

東京都：稲城市立病院、国立成育医療センター、東京都リハビリテーション病院

国立病院機構村山医療センター、武蔵野陽和会病院、永生病院

神奈川県：小田原市立病院、川崎市立川崎病院

静岡県：慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター、静岡県立静岡がんセンター

教育課程

2年間の初期研修修了に続く4年間とする。

慶應義塾大学病院を含めた各教育関連病院に、それぞれ1 - 1.5年間ずつを目安に勤務する。

．教育内容

専修医4年間を通じて、リハビリテーション科各教育関連施設の特色を生かし（脳血管障害、脊髄損傷、骨関節疾患、小児、神経筋疾患、切断、悪性腫瘍など）、リハビリテーション専門医の指

導のもとで、主治医としてリハビリテーション医学・医療を実践し、リハビリテーション専門知識を習得する。対象疾患と主なプログラムの内容を下表に示す。

脳卒中	麻痺の回復促進、痙縮コントロール、装具処方、嚥下リハビリ
外傷性脳損傷	高次脳機能障害評価、神経心理学的アプローチ、就学・就業支援
脊髄損傷	排尿管理、合併症管理、車椅子処方、対麻痺歩行再建、褥瘡対策
関節リウマチ	自助具検討、スプリント作成、関節保護、生活指導
骨関節疾患	肩関節周囲炎、腰痛・脊椎疾患、変形性股・膝、骨折・骨粗鬆症等への対応
四肢切断	義肢処方、適応判定、歩行訓練
脳性麻痺、発達障害	発達評価、シーティング、ブロック療法、歩行器処方
神経筋疾患	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、ALS、ポストポリオ症候群、筋ジストロフィーへの対応（車椅子処方、NPPV、環境制御装置等含め）
慢性閉塞性肺疾患	呼吸障害の評価、呼吸リハビリ、筋力トレーニング
心筋梗塞、心不全	心負荷に対するリスクマネジメント、AMI クリニカルパス、循環器リハビリ
末梢神経損傷	筋電図評価、補装具処方
悪性腫瘍	周術期リハビリ（脳腫瘍・乳癌・子宮癌・頭頸部癌、食道癌、肺癌、骨軟部腫瘍等）、フィジカルフィットネス維持・向上プログラム、骨髄移植、緩和医療
リンパ浮腫	スキンケア、リンパドレナージ、バンテージ指導

大学病院での研修は、特定機能病院ならではの先端医療に関わる症例、急性期症例のリハビリテーションについて学ぶ。脳卒中急性期に関しては神経内科と連携し、併診チームとして早期からのリハビリテーション介入を行い、高い治療効果を挙げている。研修では急性期病院から回復期、維持期への流れを理解し、マネジメントする能力を実践的に高めることができる。また、リハビリテーション科の固有病床においては、外来では対応が困難な症例に対してリハビリ医療を提供しています。リハビリ医学の視点から全身評価、管理を行うとともに、他職種とのカンファレンスなどを通じて主治医としての資質を養う。そのほか、骨髄移植、心大血管、呼吸器疾患などでは専門チームを設け、治療プログラムを強力にサポートするとともに、外来ではリンパ浮腫外来の開設のほか、ジストニアに対するボツリヌス療法や脳卒中片麻痺に対する上肢運動機能回復のための先端治療など、高度な先進リハビリテーションについても学習する機会を用意している。

参加協力施設においては、それぞれが特色あるリハビリ医療を展開しており、ローテーションによって、脳卒中回復期、脊髄損傷、骨関節疾患、小児、神経筋疾患、切断、悪性腫瘍など様々な疾患に関する知識を深め、幅広い臨床経験を積むことができる。

- 1-2年目 リハビリテーションチームのリーダーとしての役割を臨床場面で実践する。
また、臨床的あるいは基礎的研究の指導を受け、学会発表および論文作成を行う。
- 3年目 日本リハビリテーション医学会認定臨床医の資格を獲得する。
医学生、後輩および関連職種スタッフの教育及び指導を行う。
- 4年目 日本リハビリテーション医学会専門医の資格を獲得する。
診療、研究面での Subspecialty を確立する。

学位研究のテーマを決定し、予備実験および本実験を開始する。

・教室内行事

教室勉強会：毎月1回（土曜日）。教室員全員（関連病院医師も含む）による勉強会で、教育講演や症例検討などを行う。

サマーセミナー：8月 学位取得へ向けての研究過程を教室員全員で検討する。

予演会：不定期。主な関連学会の前に行う（専修医は必ず慶應義塾大学リハビリテーション科にて予演会を行う）。

抄読会、症例カンファレンス等は各教育関連病院にて、定期的実施される。

・定員

5～10名程度。

・研究活動

運動障害・認知障害の診断・評価・治療を専門とする学問分野として、神経生理学、運動生理学、神経筋病理学、分子生物学、障害の評価、各種疾患・障害に対するリハビリ、リハビリ心理学、地域リハビリ、リハビリ工学など幅広いテーマに取り組んでいる。近い将来予定されている長期宇宙滞在においては、微小重力環境下で不可避の筋萎縮、骨粗鬆症などの健康問題に対する宇宙医学的研究にも関与している。

慶應義塾大学病院を拠点とし、各教育関連病院においても、日常診療の他に、先輩の研究に積極的に参加するとともに、各病院部長ないし医長から臨床的あるいは基礎的研究の直接的な指導を受ける。研究の実績は国内発表にとどまらず、国際的な交流も盛んである。慶應義塾大学理工学部や国内の研究機関とも共同研究を行っている。

4年目までには学位の研究テーマを決定し、適当な指導者からの助言のもとに、予備実験および本実験を開始し、その研究過程は随時サマーセミナーで発表する。海外留学も積極的にサポートしている。研究のテーマとしては、主に以下のものを扱う。

臨床神経生理学

筋電図：運動単位自動解析、運動単位発射調節など

伝導速度：筋線維伝導速度など

反射：H反射、長潜時反射など

誘発電位：体性感覚誘発電位、運動誘発電位、脳磁図など

神経筋の生理学および病理学

末梢神経：神経病理、運動負荷の影響など

筋肉：筋線維タイプ変換、脱神経筋の病理など

運動生理

筋力：運動と筋トルク値など

呼吸・循環：障害者の呼吸・循環動態、体力評価など

動作分析：関節運動の解析、歩行分析など

リハビリテーション心理学

障害の受容、痛みのコントロール、神経心理学、認知リハビリテーションなど
障害の評価

脳卒中の機能障害の評価、ADLの評価など

各種疾患に関する臨床研究

脳卒中、外傷性脳損傷、脊髄損傷、関節リウマチ、脳性麻痺、筋ジストロフィー、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、リンパ浮腫など

その他

画像による筋萎縮の評価、神経因性膀胱、義肢・装具の開発、医用工学など

・学会、研究会など

臨床的あるいは基礎的研究の成果を、年2～3回以上、学会にて発表する。また、共同演者として参加する。その主な学会は以下の通りである。

【国内学会】

日本リハビリテーション医学会	日本リハビリテーション医学会関東地方会
日本臨床神経生理学会	日本義肢装具学会
日本脊髄障害医学会	日本脳卒中学会
国立病院総合医学会	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
運動療法研究会	日本体力医学会
日本高次脳機能障害学会	日本呼吸管理学会
日本癌治療学会	日本緩和医療学会など

【国際学会】

Annual Meeting of Association of Academic Physiatrists
Annual Assembly of American Academy of Physical Medicine Rehabilitation
International Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine
Annual Scientific Meeting of International Medical Society of Paraplegia
World Congress of International Society for Prosthetics and Orthotics
International Congress of EMG and Clinical Neurophysiology
Mediterranean Congress of Physical Medicine & Rehabilitation
International Society of Electrophysiology and Kinesiology Conference
World Congress for Neurorehabilitation など

・評価方法など

評価方法

各教育関連病院の部長ないし医長により逐次評価を受け、プログラム指導者と協議される。年間の学会発表、論文、講演、文献抄録などの数から、最も活躍した専修医をその年の「Resident of the Year」として表彰する。

プログラム修了の認定

プログラム指導者は、卒業後6年経過した時点で、専修医修了の認定を行う。

プログラム修了後のコース

教育関連病院での指導医として、臨床および後輩や関連職種の指導を行う。必要に応じて関連病院間での移動が行われる。

・身分

慶應義塾大学病院の規定に準ずる。 URL: <http://www.med.keio.ac.jp/>